

国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会における議論の整理（案）

令和元年5月30日（木）

1. 議論の経過

○施設運営連絡協議会並びに説明会及び見学会の開催状況

- 国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会（以下「協議会」という。）において、昨年11月に、東京オリンピック・パラリンピックに向けた検査体制等の充実・強化のための取組の一環として、海外から1種病原体の分与を受けることを検討する旨説明し、以降、下記に示すとおり、今回を含め3回の施設運営連絡協議会において議論するとともに、13回の説明会・施設見学会を開催した。

<施設運営連絡協議会>

平成30年11月15日（木）	第17回国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会
平成31年03月28日（木）	第18回国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会
令和元年05月30日（木）	第19回国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会

<説明会及び見学会>

平成30年12月19日（水）	自治会への説明会①
平成31年1月20日（日）	自治会への説明会②
平成31年1月25日（金）	自治会への説明会③
平成31年2月16日（土）	地域への説明会①
平成31年2月20日（水）	地域への説明会②
平成31年2月23日（土）	地域へのBSL4施設見学会①
平成31年2月25日（月）	自治会へのBSL4施設見学会
平成31年2月25日（月）	地域へのBSL4施設見学会②
平成31年2月28日（木）	BSL4施設見学会（報道関係）

- 令和 元年 5月 8日 (水) 地域への訪問説明会①
- 令和 元年 5月14日 (火) 地域への訪問説明会②
- 令和 元年 5月20日 (月) 地域への訪問説明会③
- 令和 元年 5月26日 (日) 自治会への説明会④

2. 協議会における主な意見・質問

主な意見・質問	回答・対応
<p>(1) 一種病原体の分与の必要性について</p> <p>○検査体制等の充実・強化については、BSL4 施設の指定の際に、平成 27 年 8 月に武蔵村山市長と厚生労働大臣との間で確認事項が交わされている。その中で BSL4 施設の使用は、感染者の生命を守るために必要な診断や治療等に関する業務に特化しているが、病原体の分与を受けて、検査体制の強化を図ることは、この業務の範囲内ということによろしいか。</p> <p>○ 検査法そのものを正確かつ迅速に行うことは非常に大事。そのためには、海外の BSL4 施設でも実施されているように、標準株、基準株となるものを受け入れて行わなければ、シミュレーションをしたというだけでは不十分。</p> <p>○BSL4 関係では近隣自治会の対応というものも求められているが、100%安全とは言えないものに対して、この施設でどんな実験をやっても永久にこれを続けていいとか、そういうことはとても言えないというのが現段階での結論である。</p>	<p>●病原体の分与を受けることは、東京オリンピック・パラリンピックにおいて、様々な国から多くの訪日客が見込まれ、感染症が持ち込まれる危険性やバイオテロが行われるリスクが高まることに備えて、その感染症対策の一環として行うものである。</p> <p>●これは、感染者の生命を守るために必要な診断や治療等に関する業務に特化するという確認事項に沿ったものと考えている。</p> <p>●国立感染症研究所においては、一種病原体等による感染症が発生したときに、診断に資するための検査を担当するということで、現在、BSL4 施設を稼働させ、その当時の確認事項に基づいて、安全対策、情報公開に関する体制整備を進めてきた。</p> <p>●一方で、西アフリカにおけるエボラ出血熱等の流行、更には東京オリンピック・パラリンピック等に向けて、検査体制等を充実・強化していく必要があるため、今回の提案をさせていただいた。</p> <p>●関係者の皆様のご理解を得るよう、これからも努めていきたい。</p>

(2) 情報開示・コミュニケーションについて	回答・対応
<p>○分与を受けるには、地域の皆様等の十分な理解を得られるよう、この協議会を軸にこれからも粘り強くコミュニケーションをとっていただきたい。</p> <p>○最終的には、オリンピック・パラリンピックではなく、色々とグローバルな状況が目前に迫っているので、患者の命を守っていただき、被害を最小限度に食い止めるといことは皆様も同じ考えだと思うので、地域の皆様等とはしっかりとした協議を進めていただければと心から思っている。</p>	<p>●コミュニケーションを図り、相互理解を深めることについては、全力を尽くしたい。国立感染症研究所として、地域の皆様等のご理解は不可欠であると重々承知しており、今後とも、様々なかたちで地域の方々とコミュニケーションを図っていきたい。</p>
<p>○小学校への出張授業では、とても分かりやすい授業で児童から好評であり、ありがたいと思っている。顔が見える関係を構築するという点では、こうしたことにより、お互いの理解が進むのではないかと思う。</p>	
<p>○村山庁舎の一般公開は、本校からもかなり参加者が出たが、好評だった。感染研の方に卒業式や入学式に参加いただいたり、防災訓練に生徒が参加させてもらったりしており、保護者にも親近感をもってもらっているので、このまま一般公開は続けていただきたい。</p>	
<p>○感染研の職員を小学校の学校運営協議会の委員に推薦というかたちで委嘱したいということで手続を進めている。</p> <p>○感染研の研究者の立場から、キャリア教育の一環として、やさしくかみ砕いた話を小学生にさせていただくなど協力していただきたい。</p>	
(3) 立地条件について	回答・対応
<p>○武蔵村山市長と厚生労働大臣の確認事項では、BSL4 施設の武蔵村山市以外の適地への移設を検討することになっているが、具体</p>	<p>●昨年9月に世界各国の BSL4 施設の立地や構造、人員配置等の比較調査を含む形で我が国の感染症対策の強化のあり方を検討する</p>

<p>的な検討を開始しているのか。</p>	<p>ため、必要な課題の整理を行うこととして、研究班を立ち上げている。</p>
<p>○移転に向けての研究を、予算をつけて行うことは大変いいことだと思っている。少なくとも、明快な結論が出て、最低限、厚労大臣がきちんとした見解を示すということが、自治会が動くにとっても必要なことと思っている。</p>	<p>●来年3月末までに取りまとめられる研究班の報告書を踏まえ、感染症対策の強化のあり方を具体的に検討する中で、議論していく予定。</p>

3. 議論の概要

(1) 一種病原体の分与の必要性について

村山庁舎のBSL-4施設の使用は、引き続き、感染者の生命を守るために必要な診断や治療等に関する業務に特化すべきとの意見があった。また、100%安全でないものに不安を感じているとの意見があった。

(2) 情報開示・コミュニケーションについて

近年の国立感染症研究所の庁舎の一般公開や地域行事への参加、学校運営への協力等の地域交流を進める姿勢を評価する意見があるとともに、引き続き施設の一般公開や説明会の開催等を通じて、施設運営の透明性の確保に努めるべきという意見があった。

(3) 立地条件について

武蔵村山市以外の適地におけるBSL-4施設の確保については、平成30年9月からの厚生労働科学研究の開始を評価する意見があるとともに、将来的には別の場所に建設することも検討し、現在の施設の利用は過渡的なものとするべきという意見があった。

<p>●国立感染症研究所として、説明会を行った範囲で市民の方の理解が進んできたこと、東京オリンピック・パラリンピックまでの準備期間等を勘案し、海外からの1種病原体の分与を受けの手続きを進めたいと考えている。</p> <p>●一方で、1種病原体の分与を受けることに対し、不安に感じるとの意見もあることから、その不安を取り除くための取組を検討していきたい。</p>
--